

学校番号：商01	活用事例(年間指導報告書の要約書)		様式5
学校名	北海道留萌千望高等学校	教員・教官名	富永 薫・茶谷 文毅
ねらい(○印)	(a)知財の重要性 (b)法制度・出願 (c)課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) d)知財尊重 e)知財連携 f)人材育成(学習意欲向上、意識変化、協調性向上等)		
関連法(○印)	(a)特許・実用法 (b)意匠法 (c)商標法 d)著作権法 e)種苗法 f)その他()		

テーマ	産業財産権について学習し、商標を取得する。
・背景 ・目標	(背景) ----- (目標) 標準テキスト総合編を活用し、産業財産権についての基本的な知識や役割を理解させる。また、すでに本校で開発され販売されている商品および今後開発される商品について、商標権の必要性の理解や商標権取得に向けた実践力を養う。
活動の 経過 (知財との 関連)	<p>【2年 情報ビジネス科 課題研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業財産権を学ぶ目的の確認。 ・「標準テキスト総合編」を活用した学習。 ・特許、実用新案、意匠、商標に関する実習。 ・外部講師による講演会（1回目）。 ～「ルイ・ヴィトンと知的財産権について」 ・外部講師による講演会（2回目）。 ～「ブランドと知的財産制度」 <p>【3年 情報ビジネス科 課題研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎の課題設定。 ・グループ毎に自校オリジナル商品の開発。 ・試作品の完成、企業との交渉。 ・課題研究発表会資料作成。 ・外部講師による講演会（1回目）。 ・自校開発商品（試作段階）「数の子の燻製」、「米粉シフォンケーキ」試食会。 ・自校開発商品（試作段階）「米粉シフォンケーキ」料理教室開催。 <p>【3年 情報ビジネス科 商業技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「標準テキスト意匠編」を活用した学習。 ・I P D Lを活用した意匠検索。 ・「デザインパテントコンテスト」への応募。
まとめ ・成果 ・気づき ・反省 課題	<p>本校は推進協力校初年度であり、手探りの状態ではあったが1年間様々な取り組みを行ってきた。当初は2年次および3年次「課題研究」のみで知財教育を行う予定だったが、より幅広く生徒に知財を学ばせたいという思いで、年度途中に「商業技術」の中で意匠・意匠権の学習を始めた。授業の一環としてデザインパテントコンテストに生徒の作品を応募した。「難しく考えず、とりあえずやってみよう！」という気持ちで取り組んだものではあったが、結果1名の作品が見事「意匠登録出願支援対象」として選出された。最初から無理と決めつけず、挑戦することの大切さを生徒とともに学ぶことができた意義あるチャレンジであった。</p> <p>生徒にとっても私たち大人にとっても、知財は生きていく上で学んでおくべき重要な事柄であることを再認識させられたのと同時に、チャレンジすることの大切さを学んだ1年間であった。今後も、本校の教育活動の中で知財教育を積極的に取り入れていけるよう努めていきたい。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



写真1. ルイ・ヴィトン講演会



写真2. 商品開発(数の子の燻製)



写真3. オリジナル商品試食会



写真4. 開発商品の市民向け料理教室



写真5. 米粉パッケージ作成



写真6. デザインパテントコンテスト応募作品

学校番号：商 02	活用事例(年間指導報告書の要約書)		様式 5
学校名	北海道苫小牧総合経済高等学校	教員・教官名	永井 初
ねらい(○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 知財尊重 e) 知財連携 f) 人材育成(学習意欲向上、意識変化、協調性向上等)		
関連法(○印)	a) 特許・実用法 b) 意匠法 c) 商標法 d) 著作権法 e) 種苗法 f) その他()		

テーマ	地域の特色を活かした商品開発を通して知的財産について学び、知的財産に関わる創造力を育成する。
・背景 ・目標	<p>(背景)</p> <p>本校流通経済科において、今年度より「商品開発」(2年生必修)をメインとして取り組んでおり、上記の研究テーマを目標として展開している。</p> <hr/> <p>(目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知定期財産権の基礎知識を活かし、消費者ニーズに対応した商品企画。 ・上記に関係するパッケージデザインやネーミング等の考案。
活動の 経過 (知財との 関連)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業で開発に携わっている方を招聘しての講演。 (商品が出来上がるまでの、流れをわかりやすく説明され、生徒達の反応も良好。) ・ 専門学校の先生を招聘してのデザインに関わる授業(3時間特別授業として)。 (講師の先生がデザイナーということもあり、生徒達の興味のある話題を例にわかりやすく解説していただいた。) ・ 生徒が考案・企画し商品化に至った商品の「札幌三越主催の販売会」への参加 <p>商品名「くれのはじかみ」(生姜を含んだラムネ) 写真 次ページ 開発者 2年生4名のグループ 担当教諭 高橋 和孝</p> <p>上記販売会については、地元TVニュース番組でも取り上げられ、生中継で本校生徒(開発グループの代表)が取材を受けました。</p>
まとめ ・成果 ・気づき ・反省 課題	より生徒が興味を持ち、さらに自主的に取り組めるよう教員側が研修し、授業として工夫改善を要すると思われる。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



商品化されたラムネ「くれのはじかみ」

* 「くれのはじかみ」とは「生姜」の昔の
言い方。

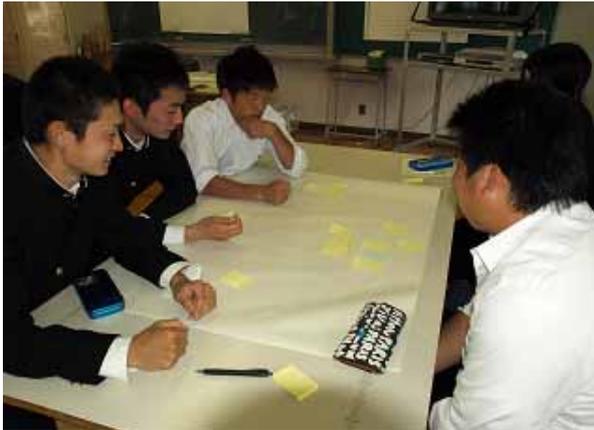
☆ このラムネは、本校生徒4名の開発グループと丸善市町さんが共同開発した商品です。ジンジャーエールをヒントにこの商品をつくりました。

学校番号：商03	活用事例(年間指導報告書の要約書)		様式5
学校名	群馬県立前橋商業高等学校	教員・教官名	渡辺 恵司
ねらい(○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c) 課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 知財尊重 e) 知財連携 f) 人材育成(学習意欲向上、意識変化、協調性向上等)		
関連法(○印)	<input checked="" type="radio"/> a) 特許・実用法 b) 意匠法 <input checked="" type="radio"/> c) 商標法 d) 著作権法 e) 種苗法 f) その他()		

テーマ	地域社会と連携した新商品開発を通して、知的財産権を学習する
・背景 ・目標	<p>(背景)</p> <p>起業実践(学校設定科目)がビジネス総合科5クラスでの展開となり、今年度で2年目となった。昨年度も新商品開発に知的財産に関する教育を取り入れてきたが、非常に効果的であったと感じている。今年度も、これまでどおり知的財産教育を継続して取り入れることで授業の幅を広げるとともに、より一層内容の充実を図っていきたいと考えた。</p> <p>(目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業財産権標準テキストを活用し、知的財産権の理解と知識を深めさせる。 商標登録、特許等の出願を念頭におき、創造力と実践力を身につけさせる。 グループ学習を通し、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけさせる。 地元企業と連携した新商品開発を通して、知的財産権を意識させ、起業家精神を育む。
活動の経過 (知財との関連)	<p>○ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで取り組んできた内容を伝え、知的財産の存在を知る。 <p>○KJ法・ブレインストーミングの実習</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ学習により生徒同士のコミュニケーションを取らせ、今後の授業展開を円滑にするために行った。 プレゼンテーション能力を身につけさせるために、模造紙を使用した発表を行った。 <p>○講義と実習</p> <ul style="list-style-type: none"> 弁理士会より提供していただいたパワーポイントデータを使用し、劇形式で知的財産権に関する講義を行った。画面に合わせて生徒がナレーションやセリフを言うことで、生徒が興味を持って取り組むことができた。 特許情報活用支援アドバイザーの方にIPDLの活用実習を行っていただいた。身近な事例を中心に説明していただいた。 産業財産権標準テキストについては総合編と商標編を使用した。総合編については弁理士講義の際に使用し、商標編については商品開発と関連してマンガと第4章(企業経営と商標)を使用した。 <p>○商品開発・商標(ロゴマーク)作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元企業の方に来ていただき、商品開発の説明をしていただいた。 各クラス1社の割り当てを行い、クラス単位での新商品開発を行った。グループワークで新商品案の検討・試作を行い、各企業へのプレゼンテーションを行った。 「みまつ食品」の協力で、生徒の案を商品化していただいた。この商品について11月に販売実習を行った。 新商品開発と関連し、商標(ロゴマーク)を作成し、クラス内での発表を行った。
まとめ ・成果 ・気づき	<p>起業実践(学校設定科目)について、より一層内容の充実を図る必要性を感じつつ日々試行錯誤しながらの授業展開であった。創造力や実践力・コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を育成することが本科目の目標であり、その手段として主に新商品</p>

<p>・反省 課題</p>	<p>開発を取り入れている。グループワークやプレゼンテーション・販売実習等、新商品開発の過程における様々な経験や知的財産権の学習は、進路先でもきっと役に立つものであると思う。この事業により、テキストやDVD資料を用いられたこと、弁理士講義やIPDL実習を行えたこと等は、知的財産の知識を深めるだけでなく、授業の幅を広げ生徒の様々な能力を高めるうえで非常に有効なものであったと思う。</p> <p>毎週行った会議で各クラスの進度の調整をすることや、報告・相談をすることが授業を展開する上で大変役に立った。来年度に向けて指導体制を整えて、より充実したものになりたいと思う。</p>
-------------------	--

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



模擬商品開発（KJ法）



模擬商品開発（発表）



劇形式による知的財産権の講義



IPDLの活用実習



新商品開発（試作品作成）



新商品開発（企業へのプレゼンテーション）

学校番号：商04	用事例(年間指導報告書の要約書)		様式5
学校名	福井県立勝山南高等学校	教員・教官名	教諭 伊東輝晃
ねらい(○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 <input checked="" type="checkbox"/> c) 課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) <input checked="" type="checkbox"/> d) 知財尊重 e) 知財連携 <input checked="" type="checkbox"/> f) 人材育成(学習意欲向上、意識変化、協調性向上等)		
関連法(○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a) 特許・実用法 b) 意匠法 <input checked="" type="checkbox"/> c) 商標法 <input checked="" type="checkbox"/> d) 著作権法 e) 種苗法 f) その他()		

テーマ	商品開発を通して知的財産権を学ぶ
・背景 ・目標	<p>(背景)本校は各種資格検定やコンピュータ操作技能の習得に加えて、デザイン学習を積極的に取り入れてきた。その作品制作と公開により、スキル向上と知財マインドの醸成が課題である。</p> <p>(目標)3年情報科「総合実践」・経営実務科「課題研究」:ドロー系ソフトを使った各種PRコンテンツ制作と、作品の公開展示の準備を行う。</p> <p>3年情報科・経営実務科「経済活動と法」:外部講演により知財学習と登録商標の検索実習を行う。</p> <p>3年情報科「課題研究」:学習成果をデジタル化してDVDに記録保存する。</p> <p>OABビジネス部:地元イベントでの学校紹介コーナー運営と知的財産教育用教材開発を行う。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>4月:勝南ランチのメニュー試作・ネーミングとポスター・チケット制作後、校内での注文販売を行う。</p> <p>5月:ドロー系ソフトの技法を学び、缶バッジ・タオル・学校祭ポスターのデザイン学習を行う。</p> <p>6月:試作したTシャツ・タオルを試用し、ブランド効果を確認した。</p> <p>7月:地元イベントの学校紹介コーナーで缶バッジの制作実演と配付を行う。</p> <p>8月:中学3年生対象高校説明会と地元イベントの学校紹介コーナーで缶バッジ制作実演を行う。</p> <p>9月:文化祭で知的財産クイズを行い、全校生徒教職員に啓発活動を行う。</p> <p>地域団体商標「越前織」で制作したワッペンを貼付したエコバッグの展示や配付を行う。</p> <p>オリジナルポップコーンを試作し、ネーミングとパッケージデザイン学習を行う。</p> <p>10月:特許情報支援アドバイザーによる講演とIPDL検索実習を行う。</p> <p>11月:PRノボリを制作し、地元イベントの体験コーナーで作品展示と缶バッジ制作実演を行う。</p> <p>生徒が好きな言葉を図案化した作品を、合作して白川文字学タオルを制作した。</p> <p>12月:漫画家とラジオ番組制作者の講演から、イラストやテーマ曲の制作経緯とコツを学んだ。</p> <p>PTA広報誌で取組みを報告し、保護者懇談会で作品展示して学習活動を紹介した。</p> <p>1月:勝南クッキーを地元菓子業者と共同開発し、ネーミングとパッケージデザイン学習を行った。</p> <p>また、PR用アニメ画像を制作し、これまでの学習内容をDVDにまとめた。</p> <p>2月:学習成果物を県自作視聴覚教材コンクールに出品する。</p> <p>県教育研究所研究発表会で活動実践報告を行い、指導内容の共有化を図る。</p>
まとめ ・成果 ・気づき ・反省 課題	<p>デザイン学習の成果物を広く学外に公開して、聴取した声をフィードバックすることで生徒のスキル向上や学習意欲の喚起を引き出せたと思う。当初の計画より、イベント回数や自発的な参加生徒数は実績で上回り、マーケティングを含めたより活発な商業教育につなげることができた。作品づくりや商品開発にあたって、関連する知的財産権を講演などで具体的事例から学び、生徒の知財尊重の意識は徐々に広がっていった。熱心に制作活動して成果物に愛着を感じた生徒ほど、知財マインドが自発的に醸成される傾向が強いように思われる。</p> <p>また、デザイン学習から実演配付までを生徒一人ひとりが前向きに取り組めたので、缶バッジは知財教材に適していると思う。生徒作品はアニメ画像やクッキーシールにも活用できた。一方、ワッペンやタオルなど統一商標のデザイン学習は、制作後のフィードバックが限られるので、学習への意欲関心が持続できるよう指導に工夫改善が必要である。</p> <p>さらに、研究事例を教職員で共有化し、複数学科での課題解決学習に取組めるよう検討したい。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

勝南ランチ Dayの様子



地元イベントに初出店



勝南タオルもソフト部優勝を祝福



ワッペンをエコバッグに貼付してお披露目



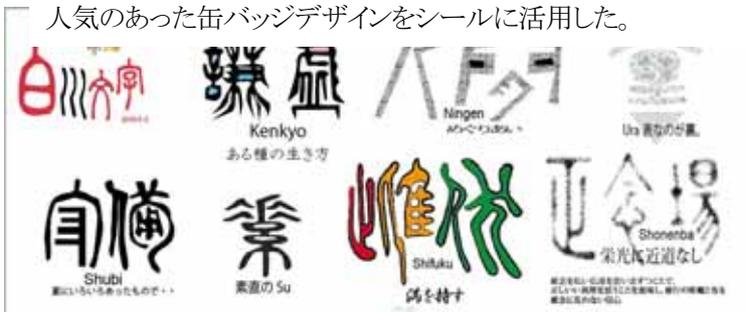
文化祭での知的財産権



地元菓子メーカーと共同開発した夢のクッキー「ゆめちゃん」
人気のあった缶バッジデザインをシールに活用した。



制作したのぼりも好評



生徒が好きな言葉を図案化したものを合作(コラボレート)した白川文字学タオルのデザイン

制作した生徒の声より

- ・自分たちで作ったものが商品になる期待感があり、楽しくデザイン学習することができた。
- ・進学してもCMソングやキャラクターデザインなどを創作していきたいと思った。

学校番号：商05	活用事例(年間指導報告書の要約書)		様式5
学校名	甲府市立甲府商業高等学校	教員・教官名	秋山 盛富
ねらい(○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a) 知財の重要性 <input type="checkbox"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="checkbox"/> c) 課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) <input checked="" type="checkbox"/> d) 知財尊重 <input checked="" type="checkbox"/> e) 知財連携 <input checked="" type="checkbox"/> f) 人材育成(学習意欲向上、意識変化、協調性向上等)		
関連法(○印)	<input type="checkbox"/> a) 特許・実用法 <input checked="" type="checkbox"/> b) 意匠法 <input checked="" type="checkbox"/> c) 商標法 <input type="checkbox"/> d) 著作権法 <input type="checkbox"/> e) 種苗法 <input type="checkbox"/> f) その他()		

テーマ	商品の企画(ネーミング、パッケージデザイン)を通じて知的財産権を学ぶ
・背景 ・目標	<p>(背景)</p> <p>全国の専門高校では商品開発が盛んに行われている。本校では毎年販売実習を実施しているが本校が企画・開発した商品はない。新設される商業科目「商品開発」を踏まえつつ生徒に体験的な学習をさせる一つの手段として商品の企画を学ぶ必要があった。</p> <p>(目標)</p> <p>商業科目「ビジネス基礎」における目標</p> <p>標準テキスト総合編を活用し、商標権や意匠権を中心に広く産業財産権について理解させるとともに産業財産権を創造および活用しようとする意欲と態度を育む。</p> <p>部活動における目標</p> <p>標準テキスト総合編および商標編を活用し、産業財産権について理解させるとともに、新商品の企画をとおして商標ならびに意匠を創造する能力とそれらを活用しようとする意欲と態度を育む。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>商業科目「ビジネス基礎」における活動の経過</p> <p>4月 科目担当教員による知財教育実施の確認と指導用テキストの配付</p> <p>7月 知財教育授業(知的財産の概略について)の実施 特許情報活用支援アドバイザーを招いた講演会の実施(写真1) 演題「意匠・商標の権利取得と活用」 講師 山梨県知的所有権センター 特許情報活用支援アドバイザー 伊藤哲雄 氏 Plananning Memo(企画書)の作成</p> <p>10月 2学期中間試験における知的財産分野の出題</p> <p>部活動における活動の経過</p> <p>4月 情報研究部(販売)生徒へのオリエンテーション</p> <p>5月 既製品への校章焼印の押印実験(写真2)</p> <p>6月 山梨県立農林高等学校への共同開発の依頼</p> <p>10月 山梨県立農林高等学校にてジュースの試作(写真3)※</p> <p>12月 東京にて新商品企画のための市場調査を実施(写真4)※ (※山梨日日新聞紙面にて紹介される)</p>
まとめ ・成果 ・気づき ・反省 課題	<p>授業では、事前・事後アンケートや定期試験から、知的財産に関する知識を獲得させることができた。(表1)事前・事後アンケートの比較により知的財産を創造しようとする意欲を向上させることができた。(グラフ1)授業時数を確保(最低でもあと2~3時間)し、模擬出願書類の作成やその後の知的財産の活用まで学ばせたい。さらに、今年度の結果で理解度が低いといえる分野については強調したり、これまで以上に標準テキストを活用するなどしてイメージを持たせた指導をしていきたい。</p> <p>部活動では商品開発に積極的に取り組もうとする意欲が向上した。また、商品開発の過程を生徒に学ばせるべく市場調査を実施した。もとより地元での流通のみならず、全国に向けて山梨をアピールできる商品の企画を目標に、東京都において市場調査を実施した。</p>

この市場調査では山梨県と聞いてイメージする色や観光地や物産などを調査した。この結果を商品のデザイン（色調）やネーミングやキャッチコピーに生かしていく予定である。この市場調査の目標は知的財産（商標・意匠）の創造過程を学ばせるところにある。独創的な発想や個人としての人間の思考から生み出される知的財産創造の過程のみならず、時間や費用や他者の協力によった知的財産創造の過程を学ばせ、その活用・保護の方法の学習に発展させていく予定である。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



写真1. 講演会の様子



写真2. 焼印の押印実験



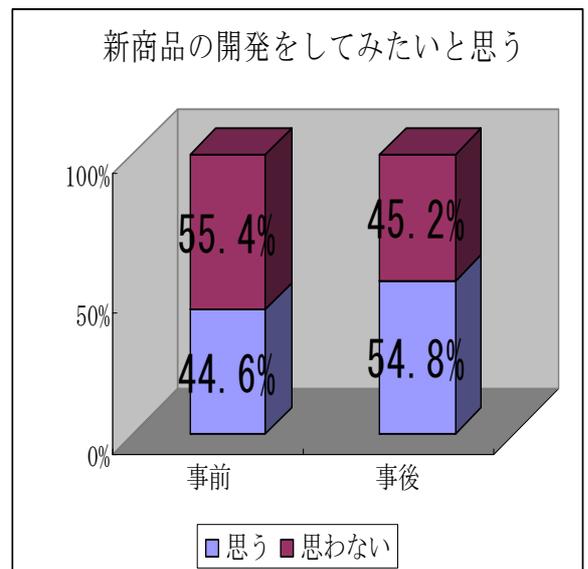
写真3. ジュースの試作



写真4. 市場調査の様子(東京・富士の国やまなし館にて)

	できた	ほぼできた	あまりできなかった	できなかった
知的財産	21.3%	50.2%	23.8%	4.7%
特許権	31.4%	44.0%	22.0%	2.5%
商標権	25.0%	47.5%	22.8%	4.7%
意匠権	15.6%	45.8%	32.7%	5.8%
実用新案権	10.2%	40.1%	43.1%	6.6%
著作権	63.8%	31.5%	3.6%	1.1%
全体	27.9%	43.2%	24.7%	4.2%

表1. 事後アンケートによる理解度



グラフ1. 事後アンケートによる意欲

学校番号：商06	活用事例(年間指導報告書の要約書)		様式5
学校名	山梨県立増徳商業高等学校	教員・教官名	教諭 武藤 秀樹
ねらい(○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a) 知財の重要性 <input checked="" type="checkbox"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="checkbox"/> c) 課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) <input checked="" type="checkbox"/> d) 知財尊重 e) 知財連携 <input checked="" type="checkbox"/> f) 人材育成(学習意欲向上、意識変化、協調性向上等)		
関連法(○印)	a) 特許・実用法 b) 意匠法 <input checked="" type="checkbox"/> c) 商標法 d) 著作権法 e) 種苗法 f) その他()		

テーマ	地域や企業との連携を図りながら、ビジネスにおける知的財産権の重要性を学ぶ。
・背景 ・目標	<p>(背景)</p> <p>・「地域とともに歩み、生きたビジネス教育の実践」をモットーとした教育活動を展開しており、地域の活性化に役立ちたいとの願いから、地元特産品の「ゆず」を用いた商品開発に取り組み、今年度は全校生徒を対象にした知的財産教育の推進を図ってきた。</p> <p>(目標)</p> <p>○標準テキストを使用した授業を展開しながら、商品開発や販売活動等に取り組み、知的財産権の重要性を理解させ、商標権や意匠権の登録ができるまでの知識と実践力を身に付けさせる。</p> <p>・地域や企業との連携を図りながら、新商品を開発していくと同時に、パッケージデザインについても学習を深め、商標権と意匠権について理解を深めさせる。</p> <p>・チャレンジショップのイメージキャラクターなどの制作を通して、企画力、創造力、実践力を養う。</p> <p>・商品開発と知的財産教育を本校の特色にしていくために、一部の教科や科目、生徒に止まらず、全校生徒の取組として発展させる。</p> <p>(今年度は学園祭のクラス新聞の共通テーマとし、全校生徒が関わる機会を設ける。)</p>
活動の経過 (知財との関連)	<ul style="list-style-type: none"> ・「標準テキストを使用した知的財産権に関する学習」(課題研究) ・「開発商品等の販売(地域交流センター)」(研究開発委員会) ・「商品開発とパッケージデザインの検討(企業と連携)」(課題研究) ・「知的財産権に関する講演会」開催(1・2学年) ・「新商品に関するモニター販売とアンケート調査」(課題研究) ・これまでの取組に関する研究発表(課題研究) ・開発した商品等の販売(富士川町夏まつり等)(研究開発委員会) ・「知的財産セミナー(日清食品(株))」開催(全校生徒) ・チャレンジショップのイメージキャラクター制作(全校生徒) ・「知的財産権をテーマとした表現活動」授業(国語表現1学年全クラス) ・知的財産権を共通テーマとしたクラス新聞づくり(全校生徒) ・地元企業の新商品開発におけるモニター支援(全校生徒) ・新商品(ゆずアイス)の企画と百貨店での商品販売(研究開発委員会) ・ゆずの収穫と選別作業(研究開発委員会・ボランティア委員会)
まとめ ・成果 ・気づき ・反省 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な商品においても、様々な知的財産権が発生しており、ネーミングやロゴマーク、形状などについて、商標権、意匠権などが発生していることが理解できた。また、商標権や意匠権を登録する意義や必要性について、具体的な事例を踏まえながら理解できた。 ・商業科目をはじめ、総合的な学習の時間や国語科の授業においても知的財産権を扱った授業展開を図り、さらに学園祭においては知的財産権をクラス新聞の共通テーマにするなど、全校生徒の取組とした教育活動の推進が図られた。 ・新商品の開発に向け、企業との連携を今後も継続させ、市場に流通させられる品質とパッケージデザインの検討を続けていきたい。また、知的財産教育が本校の特色になるよう、今後も新たな学習環境を創造していきたいと考えている。



<地元新聞社による知財講演会>



<知的財産権セミナー>



<クラス新聞作り>



<総合的な学習の時間>



<国語表現の授業「もしも著作権がなかったら？」>



<開発した「ゆずのマドレーヌ」>



<マドレーヌの試作とモニター販売>



<百貨店での販売>



<地元企業の新商品開発におけるモニター支援>



<制作したキャラクターの投票>



<研究発表大会>



<ゆずの収穫（地域貢献）>

※ 本ページに掲載した写真につきましては、権利者の許諾を得ていることを申し添えます。

学校番号：商07	活用事例(年間指導報告書の要約書)		様式5
学校名	岐阜県立岐阜商業高等学校	教員名	高橋百合、飯田裕仁、堀部和生、吉田一幸
ねらい(○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a) 知財の重要性 <input checked="" type="checkbox"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="checkbox"/> c) 課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) <input checked="" type="checkbox"/> d) 知財尊重 <input checked="" type="checkbox"/> e) 知財連携 <input checked="" type="checkbox"/> f) 人材育成(学習意欲向上、意識変化、協調性向上等)		
関連法(○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a) 特許・実用法 <input checked="" type="checkbox"/> b) 意匠法 <input checked="" type="checkbox"/> c) 商標法 <input checked="" type="checkbox"/> d) 著作権法 e) 種苗法 f) その他()		

テーマ	流通ビジネス科・ベンチャーズ部共通 地産地商をテーマにしたオリジナル商品の開発から販売までの一連の活動を通して、知的財産権について学ぶ
・背景 ・目標	(背景)・LOB(オリジナルキャラクター)を前事業時に作成 ・商品開発連携企業を昨年度末から調査、選定をしてきた (目標) ・産業の発展と特に商標権の役割について理解したうえで、実際企業の実情に関して興味関心を持って考えていく姿勢を身に付ける ・地場産業を活かした本校オリジナルの商品開発を通し、アイデアの創造から商品化までの基本的な考え方を理解し、知的財産について実践的な力を身に付ける
活動の経過 (知財との関連)	<講義> ・産業財産権標準テキスト総合編を使用し、商標を中心に学習させる指導を行った。(身近な題材を用いての指導や指導マニュアルを活用した授業) ・外部講師による講義を単元に合わせて実施し、実習や体験学習も多く取り入れ知識の定着を図った。 ・「凜心水」の商標登録を実際に行った。 <実習1>ロゴマークの作成(実際に募集していたロゴマークを発案し応募) ・対象とする組織についての調査、岐阜県のシンボルとの組み合わせ、他の類似意匠の有無を調査し、図案化、相互評価によるブラッシュアップをし、様々なアイデアが生まれた。 <実習2>商品開発 ○商品構成・市場調査 ・ターゲットを設定し、ターゲットが求めている内容を調査し、分析したうえで、自らお金を出してでも買いたい商品の中で、すでに販売されていないものを考えさせた。 ○パッケージ・デザイン・ネーミング ・各自で色鉛筆等を使いデザイン(色づかい、ネーミング、価格表示などインパクトがあるもの)に重点を置き、デザインを考えさせた。 ・PDL検索を行い同一・類似商品の確認を行った。 ・ネーミングは同種の商品と同じような安易なものになってしまい、アイデア創造の難しさを知った。 ○企業(工場)見学 ・企画した商品がどのような工場でどのように製造されるかを見学する。徹底した衛生管理の下で製造していることを理解させることで、販売時に企画した商品に自信を持ってお客様に勧められるようにしたいと考えた。 ・工場の見学により机上では見えない部分を認知させる。「安全な商品を製造し、安心して食べても

	<p>らえる商品を提供したい」という企業の思いを講義と工場見学で知ることができた。</p> <p>○販売実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画・提案した商品を実際の店舗で販売する。 ・売場作り、チラシ配布、呼びかけの事前準備や広報活動の大切さを理解させることができた。 ・実際にお客様の接客を行い、コミュニケーションの大切さを理解させることができた。店頭でのチラシ配布は断られることもあり、商品販売の難しさを知らせるいい機会だった。 <p>○販売分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業側から売上状況のデータを呈示してもらい、各自で販売分析を行った。「その日がなぜ売れたのか」を考えさせる。それぞれ意見を出し合うと細かなところまで考えていた。
<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成果 ・気づき ・反省 <p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権を身近に感じ、知識はもちろん、生産者(企画)・消費者としての意識教育をすることができた。 ・授業として企業活動(商品企画から販売まで)を体験させることができ、その後の販売分析までさせていただくことができ、毎回の授業に楽しく取り組んでいる生徒の姿が印象的であった。 ・手書きによるデザイン・まとめをパソコンで作成したが、連携授業を行うための環境としての実習室の整備(ソフト)など、どの時間でも対応できるようにしなければ年間を通しての授業ができない。 ・工場見学を行うことができ、企業のこだわりや苦労を知ることができた。 ・販売実習ができ、商品を売ることの難しさ、売れる喜びを実感させることができた。 ・学校の講義では感じる事ができないことまで、校外活動でより実践的に学ばせることができた。 ・一番苦慮した点は評価である。生徒の個々の取り組み、グループでの取り組み等、学習過程の段階での具体的な評価方法の難しさを感じた。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



写真1. ロゴマーク作成

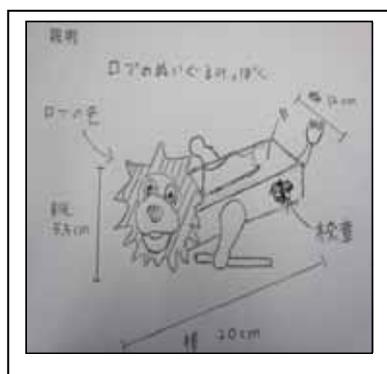


写真2. 創作作品イメージ



写真3. 企業見学風景



写真4. パッケージデザイン作成



写真5. 開発商品①の広告



写真6. 開発商品②

学校番号：商08	活用事例(年間指導報告書の要約書)		様式5
学校名	兵庫県立姫路商業高等学校	教員・教官名	井藤 千恵美
ねらい(○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a)知財の重要性 b)法制度・出願 <input checked="" type="checkbox"/> c)課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) <input checked="" type="checkbox"/> d)知財尊重 e)知財連携 <input checked="" type="checkbox"/> f)人材育成(学習意欲向上、意識変化、協調性向上等)		
関連法(○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a)特許・実用法 b)意匠法 <input checked="" type="checkbox"/> c)商標法 <input checked="" type="checkbox"/> d)著作権法 e)種苗法 f)その他()		

テーマ	学習深化に合わせた知財教育 – ビジネス活動を通じて –
・背景 ・目標	(背景) (目標) 【1年 全学科 ビジネス基礎】 知的財産権の基礎的な知識を身につけ、理解する。 【2年 商業科 文書デザイン】 商標のデザインを通して、商標に関する知識と理解を深める。 【2、3年 全学科 情報処理、マーケティング他】 知的財産権を中心に、関連する権利や法律の知識と理解を深める。 【3年 全学科 課題研究】 商品開発を通して、知的財産権の重要性と地域社会における知的財産権を研究する。 商品開発の中で、ビジネスに必要なものは何かを考えて取り組む。
活動の経過 (知財との関連)	【1年 全学科 ビジネス基礎】 1) 知的財産権制度の概要を学習。(本校の取り組み VTR とテキストの活用) 【2年 商業科 文書デザイン】 1) 商標をデザインしていく中で、効果と必要性を理解する。 2) オリジナルの商標が法的にどのように保護されるかを学ぶ。 【2、3年 全学科 情報処理、マーケティング他】 1) テキストを活用して、権利と法制度を中止に学び考える。 【3年 全学科 課題研究】 1) これまで学んできた知的財産権制度について復習し、まとめて班ごとに発表する。 2) 地元の会社と提携して商品開発とその商標創作から商標とブランドについて考える。 3) 各自デザインした商標から商標の仕組みを学ぶ。 4) 販売実習からビジネスモデルに必要なものを学ぶ。 5) 1年間の取り組みについてのまとめと報告を行う。
まとめ ・成果 ・気づき ・反省 課題	1) 推進協力校3年目になり、校内において「知的財産」が少しずつではあるが浸透してきている。年々商業科目を中心にテキストを活用しながら授業にも組み込んでいけており、知財教育について理解が広がっている。それに応じて生徒にも浸透してきており、今後も継続して取り組む必要性を感じている。 2) 平成25年度から本格実施される新学習指導要領に合わせて、本格的に3学年間での知財教育の体系をつくっていききたい。そのためには科目で「商品開発」が新設されるので、3年次の課題研究において、発展的かつ実践的な内容を考えて取り組みたい。 3) 地元の企業と提携して和菓子と皮革商品の商品開発に取り組んでから2～3年目を迎えたが、これからこれらを発展させるために、地元の調査を積極的に行おうと考えている。特に皮革商品は地場産業としてもっと盛り上げていくために、知的財産教育と深くつなげて指導したい。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



(写真1) 生徒考案クリップ



(写真2) アイデアシート



(写真3) 販売実習「チャレンジショップ」



飾磨工業高校にて



(写真7) 皮革商品



(写真8) 高校総合文化祭にて

学校番号：商09	活用事例(年間指導報告書の要約書)		様式5
学校名	岡山県倉敷市立玉島高等学校	教員・教官名	梅谷 広光
ねらい(○印)	<input checked="" type="radio"/> a 知財の重要性 <input checked="" type="radio"/> b 法制度・出願 <input checked="" type="radio"/> c 課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) <input checked="" type="radio"/> d 知財尊重 e 知財連携 <input checked="" type="radio"/> f 人材育成(学習意欲向上、意識変化、協調性向上等)		
関連法(○印)	a)特許・実用法 <input checked="" type="radio"/> b)意匠法 <input checked="" type="radio"/> c)商標法 <input checked="" type="radio"/> d)著作権法 e)種苗法 f)その他()		

テーマ	教科横断的な学習を通して創造性を高め 商品開発に主体的に取り組むマインドを育成する
・背景 ・目標	(背景)本校では、関係科目において平成 19 年度より 3 年間、岡山県商業教育協会主催の「商業高校の一枚一品運動」に継続して取り組んだ。この事業は、社会で求められる人材の育成および地域資源やノウハウを活用し、地元企業と連携した商品開発をとおして、各地域に根ざした学校を目指すとともに、起業家マインドの醸成を目的としている。昨年度より、この取り組みに知的財産の視点を加えてより実践的な内容としている。 (目標) [1年]産業財産権標準テキストを活用し、知的財産権の概要について理解させる。 [1・2年]・様々な創作活動を体験しその楽しさに触れながら創造性を高める。 [2・3・4年]既習科目から得た知識と技術を商品開発へ活かそうとする主体性を育む。 [3・4年]知的財産の活用に対するモラルやマインドの育成を図る。 [3・4年] 産業財産権を中心に知的財産権とビジネス活動との係わりについて理解させる。
活動の経過 (知財との関連)	[全]本年度の学習内容についてのガイダンス [1]知的財産権の概要(標準テキスト) [全]知的財産権とビジネス活動のかかわりについて(外部講師) [3・4] I P D L 検索。基本的な検索方法の実習 [1・2]普通科目における創作活動を体験(国語科) [1・2]短歌・俳句をコンテストに応募(国語科) [1]商標について(標準テキスト商標編) [全]社会に求められるデザインのあり方について(外部講師) [1・3・4]文房具のUDを考案(標準テキスト意匠編) [3・4]学科のマスコットキャラクター用を考案(標準テキスト商標編) [3・4]マスコットキャラクターの活用について企画 [3・4]学習成果のまとめ・レポート作成・発表
まとめ ・成果 ・気づき ・反省 課題	・2年間の取り組みにおいて、すべての生徒に必要な学習内容であることへの確信を得た。今後さらに深化した取り組みを進める為に、教員の組織化や教育課程への位置づけを進めていきたい。産業財産権標準テキストは、高校生が知的財産を学ぶテキストとして大変使いやすく今後も使用したい。最後に研究の機会を与えてくださった関係各位に深く感謝の意を表す。 ・外部の関連組織団体(特に無償で対応していただけるところ)との連携等を進めていくことが教育の深化には不可欠。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



写真1. 第1回講演会（経営者）
「知的財産権とビジネス活動のかかわり」



写真2. 第2回講演会（マーケティング担当者）
「ブランド戦略 ユニバーサルデザイン」



写真3. 第2回講演会
ユニバーサル商品の体験



写真4. 第2回講演会
商品からの“気づき”発表



マスコット・キャラクターを活用した商業科PRポスター



商業科の
マスコット・キャラクター



文化祭をPRする
マスコット・キャラクター

学校番号：商10	活用事例(年間指導報告書の要約書)		様式5
学校名	玉野市立玉野商業高等学校	教員・教官名	大島博幸
ねらい(○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 知財尊重 e) 知財連携 f) 人材育成(学習意欲向上、意識変化、協調性向上等)		
関連法(○印)	a) 特許・実用法 b) 意匠法 c) 商標法 d) 著作権法 e) 種苗法 f) その他()		

テーマ	開発商品の育成・新商品の開発、ビジネス現場における知的財産権
・背景 ・目標	<p>(背景)</p> <p>平成21年度まで「目指せスペシャリスト」事業のなかで商品開発を行ってきたが、指定終了後も継続的に実践をしていくため知的財産教育をからめて指導することとした。</p> <p>(目標)</p> <p>地元の食材を生かした商品を企画し、開発を行う実践の中で、知的財産権の概要・意義・重要性を理解させ、知的財産権に対する意識を高める。</p>
活動の 経過 (知財との 関連)	<p>【座学】</p> <p>『知的財産権とユニバーサルデザインについて』 コクヨマーケティング株式会社 マーケティング本部 カスタムソリューション部 中国グループ 中野雄治氏</p> <p>『地域特産物を育てる』 胸上漁協 漁師 富永美保氏</p> <p>【実習】</p> <p>①地元特産物の海苔のパッケージデザイン ②生徒のデザインによるエコバッグの作成 ③地元特産物の紫芋を使った商品の企画・販売</p>
まとめ ・成果 ・気づき ・反省 課題	<p>実際に商品開発を行う前に、「産業財産権標準テキスト(総合編)」を用いて知的財産権についてある程度の知識を与えてから商品開発を行った。当初は知的財産権についての知識をほとんど持っていなかったが、活動を行っていくうちに知的財産権の重要性を認識するようになった。</p> <p>知的財産権について、座学のみで理解させていくのではなく、自分たちで企画をし、試作品をつくるなど苦勞をして商品を作り上げる体験を通していく中で、知的財産権というものはどういふものなのかを理解していったため、より深く理解できたと思われる。</p> <p>協力業者の担当者と事前に打ち合わせをして、こちらの意図を理解していただき、生徒に考えさせるように指示を出していただいた。校内で打ち合わせをし、それを持って業者のもとに出向き、担当者にプレゼンすることにより、コミュニケーション力が育成された。4月当初に比べると、実際の業者を相手に自ら企画した商品のプレゼンを行い、打ち合わせをしながら商品化を進めていくという活動をする中でかなりの成長が見られた。</p> <p>また、自分たちが企画した商品の販売をすることにより、商品に対する愛着が増し、知的財産権についての意識も高くなった。</p>

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

① テキストを活用した授業展開



② 地元特産物の海苔のパッケージデザイン



③ 生徒のデザインによるエコバッグの作成



④ コクヨマーケティング株式会社によるワークショップ



⑤ 地元特産物の紫芋を使った商品の企画・販売



学校番号：商11	活用事例(年間指導報告書の要約書)		様式5
学校名	指宿市立指宿商業高等学校	教員・教官名	安藤 新
ねらい(○印)	(a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 (c) 課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) d) 知財尊重 e) 知財連携 (f) 人材育成(学習意欲向上、意識変化、協調性向上等)		
関連法(○印)	a) 特許・実用法 (b) 意匠法 (c) 商標法 (d) 著作権法 e) 種苗法 f) その他()		

テーマ	ビジネス教育における知的財産教育の実践
・背景 ・目標	(背景) 本校では、高校生にできる地元「指宿」の活性化をコンセプトに、オリジナル商品の開発や学校デパートの「指商デパート」などのビジネス教育に取り組んでいる。これらの活動を推進していくためには知的財産教育が必要不可欠である (目標) ビジネスの諸活動の中で、商業高校でこれまで学習してきた内容を実践、活用していくために必要な産業財産権をはじめ知的財産権を正しく理解した人材の育成
活動の経過 (知財との関連)	「ビジネス基礎」1年・「総合実践」3年 ・「オリジナル商品開発」と知的財産権、産業財産権の関わりについて ・標準テキストや配布DVDを活用し、知的財産権についての概要説明 ・外部講師による産業財産権に関する支援セミナー 「総合実践」3年 ・指商オリジナル商品開発に関する企画書とレポートの作成方法の説明 ・商品企画、開発の当たってのオリエンテーション ・各クラスが店舗を開き販売実習を行う「指商デパート」に向けて、オリジナル商品の企画・開発を各自で行う(IPDLで確認) ・オリジナル商品の企画発表会を各クラスで行い、代表企画の決定 ・協力企業へのプレゼン会を経て、オリジナル商品開発協力企業との合同商談会 ・協力企業との最終確認のための打ち合わせ会 ・販売商品の確認(ファミマシップフォーラム2010への参加) ・指商デパート販売商品説明会(販売する商品のプレゼン) ・第21回指商デパートを開催(キャッチコピー <small>いいないいな</small> 117117指デパ)
まとめ ・成果 ・気づき ・反省 課題	ひとり一人が企画を考えることで、創造的な学習を全員で行えた。また、セミナーを通して知財に関する興味関心を持たせることができた。 指商デパートでの発売を目標にオリジナル商品を企画し、実際に6つの企画のうち5つの商品を完成させることができた。開発担当になった生徒は協力企業との打合せを頻繁に行い、納得いく商品を完成させることができた。 指商オリジナル商品 ①おいもどん携帯クリーナー(さつまいもをモチーフにした携帯クリーナー) ②めっ茶うま芋んモナカ(芋ソースと抹茶ソースをバニラアイスでサンドし、餅ソースでくるんだ最中)

- ③芋Deパイ（三角のパイ生地の中に紫芋とホワイトクリームを挟んだパイ）
- ④生茶ラメル（市来農芸高校の生徒が作ったお茶を使った生キャラメル）
- ⑤イッシーのえさ（池田湖に住んでいると言われている怪獣をモチーフにしたお土産品）
- ⑥空麺「そらめん」（指宿の特産品であるそらまめを使ったクリームパスタ 現在未完成）

以上の商品が完成したが、いずれも限定商品の枠を超えることはなく、定番商品へと成長させていくことが今後の課題である。

売れる商品になるにしたがってその商品を保護しなければ模倣されるリスクを負うことになり、権利取得の必要性が高まってくる。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



写真1. 企業との商談会



写真2. イッシーのえさ



写真3. 芋Deパイ



写真4. 指宿デパート



写真5. コンビニでの販売



写真6. 知財セミナー

学校番号：商12	活用事例(年間指導報告書の要約書)		様式5
学校名	霧島市立国分中央高等学校	教員・教官名	清川 康雄
ねらい(○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a) 知財の重要性 <input type="checkbox"/> b) 法制度・出願 <input checked="" type="checkbox"/> c) 課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) <input type="checkbox"/> d) 知財尊重 <input checked="" type="checkbox"/> e) 知財連携 <input type="checkbox"/> f) 人材育成(学習意欲向上、意識変化、協調性向上等)		
関連法(○印)	<input type="checkbox"/> a) 特許・実用法 <input type="checkbox"/> b) 意匠法 <input checked="" type="checkbox"/> c) 商標法 <input checked="" type="checkbox"/> d) 著作権法 <input type="checkbox"/> e) 種苗法 <input type="checkbox"/> f) その他()		

テーマ	学科間連携及び地域との連携を活かした知的財産教育の実践 —商品開発の新しいモデル提案—
・背景 ・目標	(背景)地域の活性化に対しては、当事者だけでは解決するには、多くの困難が伴う。知的財産教育からのアプローチは、その解決において有効と考える。新たな研究方法の検討方法が加えられることによって、高等学校の機能を活かした地域との関わりを生み出すことにもなる。 (目標)産業財産テキストを活用する中で、必要な知的財産権を理解し、各学科の特徴を活かした人材を育成する。また、地域との連携も視野に入れた商品開発を行う。
活動の経過 (知財との関連)	<p>【 4月】知的財産教育推進委員会での今年度の実施計画の検討</p> <p>【 5月】外部講師(加治木工業高校)による「知的財産教育研修会(教師向け)」を実施</p> <p>【 6月】科目「課題研究」において霧島商工会議所や事業主との広告チラシ作成や今後の実施計画についての検討</p> <p>【 7月】鹿児島県商業研究発表大会でのチャレンジショップの取組を発表【地域連携】 「朝読書の時間」を利用した知的財産権に関する「校内集団読書」の実施【学科間連携】</p> <p>【 8月】「ビジネスアイデア甲子園」(商品開発への導入)参加【地域連携】 「鹿児島県統計グラフコンクール」(市場調査への導入)参加【地域連携】 今後の市場調査に向けて「社会調査士講習会(立教大学)」に参加【地域連携】</p> <p>【 9月】霧島商工会議所との共同商品開発の準備と具体化【地域連携】 DVDによる「知的財産教育研修会(生徒向け)」を実施【学科間連携】</p> <p>【10月】平成22年度 霧島市立国分中央高等学校 知的財産教育セミナー開催【学科間連携】</p> <p>【11月】文化祭(精華祭)「精華商店街」におけるチャレンジショップでの「霧島バーガー」の試行販売【地域連携】</p> <p>【12月】外部講師(鹿児島県工業所有権センター)による「知的財産教育講演会(教師・生徒)」を実施(学科間連携によるアイデアを募集)【学科間連携】</p> <p>【 1月】知的財産管理技能検定への取組を検討(問題分析等)</p> <p>【 2月】日本知財学会への学校単位の入会の検討 次年度に向けた活動総括</p> <p>【 3月】今後の市場調査に向けて「専門社会調査士講習会(立教大学)」に参加【地域連携】 次年度に向けた活動総括</p>
まとめ ・成果 ・気づき ・反省 課題	知的財産を地域社会に還元するには、高等学校の施設設備を利用して行う研究の成果に期待が係ると考える。知的財産は、権利取得の可能性、収益性、市場性など総合的にかなりの効果が期待できる。本校では地元商工会議所との地域連携や学科連携(商業・農業・家庭)を通じて、高等学校の教育研究活動等の成果を直接的に社会に還元し、その活用を図っていくことが地域社会から強く期待されていることから、組織を挙げてこれに取り組むことが重要である。また、 知的財産ポリシー など、学校における教育研究活動等を通じて創出した知的財産の取扱いに関する基本的考え方を定めることが大切と考える。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



写真1. 学校主催研究公開(知財セミナー)



写真2. 霧島商工会議所との連携
(広告チラシ作成)



写真3. 知的財産権集団読書



写真4. 商品開発(霧島バーガー)



写真5. チャレンジショップ
「国分中央海援隊」研究発表大会参加



写真6. 知財財産教育職員校内研修

学校番号：商13	活用事例(年間指導報告書の要約書)		様式5
学校名	鹿児島県立大島北高等学校	教員・教官名	教諭 柿木 千枝
ねらい(○印)	<input checked="" type="checkbox"/> a)知財の重要性 <input type="checkbox"/> b)法制度・出願 <input checked="" type="checkbox"/> c)課題解決(創造性開発・課題研究・商品開発等) <input type="checkbox"/> d)知財尊重 <input checked="" type="checkbox"/> e)知財連携 <input checked="" type="checkbox"/> f)人材育成(学習意欲向上、意識変化、協調性向上等)		
関連法(○印)	<input type="checkbox"/> a)特許・実用法 <input checked="" type="checkbox"/> b)意匠法 <input checked="" type="checkbox"/> c)商標法 <input type="checkbox"/> d)著作権法 <input type="checkbox"/> e)種苗法 <input type="checkbox"/> f)その他()		

テーマ	高校生による地域ブランドの活性化と企画力・創造力のプレゼンテーション
・背景 ・目標	<p>(背景)</p> <p>奄美大島の素材を、高校生の企画力や創造力を生かして地域に貢献したいと考えていた。オリジナルの商品を開発し、それに携わる知財の学習をしてきた。</p> <hr/> <p>(目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業高校で学習してきたことを実践し、活用する力を身につけさせる。 ・活動する課程で知的財産がどのように関わっているのか理解させる。
活動の経過 (知財との関連)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準テキストや副教材を活用して、知的財産権についての基礎教育 2. 各学年の商業授業を通じてマーケティングの基礎学習 3. IPDLの検索と活用方法の学習 4. 本校独自デザインのTシャツを製作し、PTA、地域行事等で活用 5. 商品開発の企画・立案 6. 協力企業との打合せと試作品の製造 7. 商品のパッケージ作成 8. 地域の専門学校へ、商品を活用した料理のアイデア依頼 9. プレゼンテーション能力育成のための生徒研究発表大会参加 10. 新商品開発と新企画の提案のための活動 <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを使用し、プレゼンテーション用の資料作成 ・ネーミングやロゴマーク、パッケージ等の考案 ・3年生全員が新企画の提案を行い、投票の結果得点上位2組が文化祭で発表 11. デザインパテントコンテストの参加 12. 商品のCM作成
まとめ ・成果 ・気づき ・反省 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から、知的財産について学習してきた。そのため3年生の活動や理解等はスムーズであった。 ・2年生も3年生とともに活動することができたので、プレゼンテーションや情報検索の方法をより学ぶことができた。 ・商品のパッケージのデザインは、IPDLを活用して作成することができた。 ・デザインパテントコンテストに参加し、ものを創る「楽しさ」や「苦勞」を学ぶことができた。 ・生徒が知的財産について柔和に学べるように、教材の活用方法を工夫する必要があった。 ・離島のためセミナーへの参加が難しい。 ・知財はとて身近なところにあり生活の中に深く関わっているので、学習し知識を得ることは生徒にとって将来大切な財産になると感じた。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」



写真1. ハンダマジャムの作成



写真2. ハンダマジャム



写真3. オリジナルTシャツ



写真4. IPDL検索



写真5. 専門学校へ訪問



写真6. 県生徒研究発表大会